

令和5年

第5回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

令和5年第5回仙北市議会定例会 市政報告

令和5年第5回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項についてご報告します。

はじめに、令和5年秋の叙勲等の受章についてです。

11月3日、秋の叙勲の発表がありました。仙北市では、地方自治功
労で元市議会議員の伊藤邦彦さん、阿部則比古さんが旭日双光章
を、消防功労で元大曲仙北広域市町村圏組合消防長の菅原達美さ
んが瑞宝小綬章を、元仙北市消防分団長の田口志良さん、元田沢湖
町消防分団長の羽根川専治さん、元西木村消防副分団長の佐々木
茂義さんが瑞宝単光章を受章されました。

また、第41回危険業務従事者叙勲の発表があり、仙北市では、警
察功労で元警視庁警視の草薨実さん、元埼玉県警警部の荒木清吾
さんが瑞宝双光章を、元秋田県警警部補の狐崎隆さんが瑞宝単光
章を受章されました。

さらに、各分野で表彰があり、茶谷十六さんが芸術文化振興で功
績があったとして、文化庁の地域文化功労者表彰を、高橋キヌ子さん
が地元の民謡民舞の礎を築いた功績により、秋田県文化功労者表彰
を受賞されました。

第55回秋田県職業能力開発促進大会では、樺細工職人の荒川慶
太郎さんが令和5年度秋田県優良技能者として秋田県知事表彰を、
秋田県統計功労者表彰式では統計調査員の石垣照子さん、佐藤
厚子さんが秋田県知事表彰を受賞されました。

また、自衛官募集に功績があったとして、木原稔防衛大臣から仙
北市へ感謝状が贈呈されました。

この度の受章、表彰は、永年にわたる職務の精励や功績、功労が
認められたものです。市民の皆さんと共にご労苦に感謝し、心からお
祝いを申し上げます。

次に、行財政改革についてです。

行財政改革の一環として令和6年度の各部局経営方針シートの策定作業を進めております。

このシートは、部局長が各部の経営者としての役割を果たすためのもので、単に事業の一覧を示すだけでなく、各部の使命・役割、人材の活用、そして重要視すべき価値を基に、取り組むべき課題を明確に整理したものとなっています。

令和6年度の予算編成に際しては、既に実施した事務事業評価や施策評価、そしてこの経営方針シートを基盤として、計画的に進めます。

また、総合計画についても、同様にこれらを基盤とした上で、デジタル田園都市構想総合戦略、SDGs未来都市計画と統合し、3年後の目指すべき姿を見据えた改定作業を進めております。

各部局経営方針シートの完成版及び総合計画の案は、本定例会最終日にタブレットへ掲載いたします。

次に、仙北市人口動態についてです。

10月31日現在の人口は2万3,561人で前年同月比656人減、世帯数は1万351世帯で前年同月比86世帯減となっております。

今年度10月までの出生数は44人となっています。前年同時期の出生数は42人で、2人増という状況です。引き続き子育て支援や若者関連施策の取組等について積極的に情報提供するとともに、その財源確保に向け、国や県への要望を続けます。

次に、一般会計補正予算(第11号及び第12号)についてです。

第11号の補正額は、58万4千円の追加で、補正後の額は225億9,849万8千円です。補正事業は、議員報酬等です。議員の期末手当の改正に伴うもので、基準日が12月1日であることから、定例会初日の議決をお願いするものです。

第12号の補正額は、2億321万5千円の追加で、補正後の額は

228 億 171 万3千円です。主な事業は、総合行政情報システム管理費、戸籍事務・マイナンバー制度導入事業費、営農継続緊急支援事業費、農業経営等復旧・継続支援対策事業費補助金、一般教育振興総務費などです。繰越明許費は設定、債務負担行為補正は追加及び変更、地方債補正は変更です。

なお、本日提案する補正予算案のほか、電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金の増額・強化に伴う低所得世帯への給付金7万円の支給やその他の対応について、本定例会に追加提案したいと考えております。

次に、令和6年度の財政見通しについてです。

国の令和6年度予算は、経済財政運営と改革の基本方針 2023 において、未来への投資の拡大と構造的賃上げの実現のための方針を掲げるとともに、本方針、骨太方針 2022 及び骨太方針 2021 に基づき、経済・財政一体改革を着実に推進することとしています。

総務省の令和6年度の概算要求では、地方の一般財源総額は実質的に令和5年度と同水準を維持することとしていますが、臨時財政対策債を含めた実質的な地方交付税については削減される見込みとなっています。

本市の財政状況を見ると、歳入面では人口減少や実質的地方交付税の削減により増収を見込むことが難しい状況にあります。歳出面では、高齢者人口割合の増加に伴う社会保障費や長期化する物価高騰に伴う経常経費が増加するなど、厳しい財政運営となることが想定されます。

予算編成に当たっては、市税等各種収入金の収納率向上、遊休資産の処分、国県補助金などの財政支援の獲得により財源の確保を図るとともに、徹底した事業の見直しやデジタル技術の活用により事務の効率化を図ることで歳出を抑制し、真に必要な施策と事業を実施します。厳しい財政状況にあっても、将来を見据えた持続可能な財政構造の確立に努め、未来に繋げる一歩とする姿をお示しします。

それでは、各部局等の主要事項及び諸般の状況を報告します。

【総務部】

◇固定資産税実地調査について

4月から固定資産税調査室で行っている固定資産税の実地調査について、詳細な確認を除き本年度調査対象である宅地、雑種地等約31,400筆の調査が完了しました。

現況地目等が変更されているものは、令和6年度の固定資産税の税額に反映させてまいります。調査結果がまとまり次第、議員の皆様にご説明する機会をいただきたいと思いますと考えています。

◇神奈川県大和市との災害時相互応援協定について

10月20日、田沢湖庁舎において神奈川県大和市と災害時相互応援協定を締結しました。協定式には、大和市の古谷田力^{こや たつとむ}市長からお越しいただきました。

協定内容は、災害時の物資提供や被災者の受け入れ、職員派遣などで協力する内容となっております。今後は、両市でさまざまな情報交換や交流人口の創出を図り、連携協力を進めます。

◇八幡平での遭難について

10月31日、八幡平レストハウス付近の登山口から入山した愛知県の女性が道に迷い遭難しました。翌日入山した登山口へ自力下山し、けがはありませんでした。

◇住宅火災について

11月25日、角館町^{たまちかみちょう}田町上丁で住宅が全焼し、隣家の小屋にも延焼、小屋の一部が焼けました。この火災でのけが人はありませんでした。出火原因は調査中です。

【企画部】

◇ふるさと納税について

11月26日現在のふるさと納税の寄附額は、16億550万1,060円に達しており、昨年同日比で181%に増加しています。

増加の背景として、国により10月からふるさと納税制度の改正があり、返礼品の価格が上がる、あるいは返礼品の量が減少することを懸念した多くの方々が、9月に駆け込みで寄附を行った結果、同月の寄附額は昨年同月比で551%という大幅な増加となりました。

10月以降の寄附額は昨年同期比で75%となっておりますが、これまでは年末にかけて寄附額が増加する傾向が見られるため、年間トータルでの寄附額は昨年を上回ることが予想されます。今後もさらに多くの方々からご助力いただけるよう魅力ある返礼品の創出や情報発信に努めます。

◇企業版ふるさと納税について

株式会社アルファシステム様より、企業版ふるさと納税として100万円の寄附を賜りました。この寄附金は、グリーンツーリズム推進事業に充当させていただくこととなり、この事業を通じて、市の魅力をさらに高め、多くの方々に本市の自然や文化を体験していただく機会を増やしていきます。

◇秋田大学との連携協力協定再締結について

10月13日、西木庁舎において秋田大学との連携協力協定を再締結しました。平成26年に秋田大学と連携協力協定を締結しましたが、遠隔医療技術をはじめとする医療MaaSやPHR、さらに介護における介護DXの共同研究や、本市の人口減少・高齢化の課題を踏まえ、医療の充実や若者の地元定着を促進するための新たな取組を協定に追記することになりました。

今後、連携をさらに深化させ、新たな取組を積極的に推進してまいります。なお、医療MaaSやPHR、介護DXについては、広報への折込

にて市民の皆様へ周知する予定です。

◇メルカリエコボックスの配布について

大手フリマアプリ「メルカリ」との連携事業第3弾として、家庭内の不要だが捨てるにはもったいない物品を一時的に保管しておく箱「メルカリエコボックス」の無償配布を開始します。

不要品を入れてみるどころから始め、箱の中身を見返し、保管したものを家族や友人への譲渡、フリーマーケットに出すなど「捨てる」から「長く使う」、「人に譲る」など、SDGs未来都市として、モノのリユースを推進していきます。

◇秋田新幹線新仙岩トンネル整備促進期成同盟会要望活動について

秋田新幹線新仙岩トンネル整備促進期成同盟会による要望活動を、11月20日に国土交通省、御法川信英衆議院議員みのりかわのぶひでほか地元選出国會議員及び東日本旅客鉄道株式会社、21日に財務省に対して行いました。会長の老松博行大仙市長おいまつひろゆきが急きょ参加できなくなったため、会長代行の副会長として地元の声を届けてきました。

秋田新幹線新仙岩トンネル整備の実現は、秋田新幹線が豪雨や豪雪、強風などの自然災害による運行リスクを避け、一年を通じた安定運行が可能となり、地域経済活動の充実に大きな効果が期待されます。今後も引き続き、国に対して積極的な財政支援を強く要望してまいります。

【市民福祉部】

◇電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金について

世帯全員の令和5年度市民税が非課税の世帯に対し、1世帯当たり3万円を給付する電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金給付事業について、確認書の送付対象世帯数 3,660 世帯に対し、3,562 世帯、97.3%が支給済みとなり、物価高騰を受けた低所得

世帯への生活支援となりました。

◇仙北市子育て世帯応援給付金について

物価高騰による子育て世帯の経済的負担を軽減するために、平成17年4月2日から令和5年6月1日生まれの子どもがいる世帯に対し、1世帯当たり3万円を支給する事業を実施しました。

10月31日まで1,313世帯から支給申請があり、3,939万円支給し、子育て世帯への支援となりました。

【観光文化スポーツ部】

◇温泉を活用した会議への参加について

11月17日、18日の2日間、北海道とよとみちょう豊富町で開催された、健康と温泉フォーラムに参加しました。フォーラムには、豊富町、山口県ながとし長門市を始めとした全国7自治体と、玉川温泉や豊富温泉など、各地の温泉地の関係者が参集し、温泉を活用した健康づくりの事例発表、伝統と温泉をテーマとしたパネルセッションなどを行いました。

11月23日、大分県べっぶし別府市で開催された別府 ONSEN アカデミアに参加しました。このシンポジウムでは温泉の可能性を全国、そして世界に発信するため、フランスのヴィシー市から副市長のイヴジャンビニョン医学博士やパラアスリートのかみじゆい上地結衣選手など各分野を代表する方々の講演がありました。また、学生から見た温泉の現状とこれからと題して大分県立別府べっぶしやうせい翔青高校、仙北市からは角館高校がオンラインで探求研究の成果発表を行いました。

各地の先進的な取組、講演内容も素晴らしいもので、本市としても温泉を活用した観光振興、市民の健康増進を進めていきます。

◇抱返り紅葉祭について

10月10日から11月10日までの1か月間、抱返り紅葉祭実行委員会による抱返り紅葉祭が開催されました。駐車台数やよぶのる角館などの公共交通機関の利用者から推定した入込客数は3万4千人

で、コロナ前の令和元年度の69%、昨年度の106%となりました。自家用車は昨年度より20%ほど減っていますが、団体旅行のバスは2倍以上に増え、レンタカー利用も含め、外国人の方が非常に多い印象でした。

今年はクマの出没が県内各地であり心配もありましたが、遊歩道にクマよけの鉄管や多言語によるクマ注意喚起等の看板を設置したこともあり、期間中にクマによる被害等大きな影響などはありませんでした。

◇ディスカバー^む農山^ら漁村の宝第10回記念賞の受賞について

11月10日、総理大臣官邸で開催された有識者懇談会において、仙北市農山村体験推進協議会がディスカバー^む農山^ら漁村の宝第10回記念賞に選ばれました。これは農林水産省と内閣官房が、地域資源を引き出すことにより、地域の活性化や所得向上に取り組んでいる活動を表彰するもので、過去に選定された優良事例の中から選定後、さらに著しい発展性が認められ全国の模範となる団体として、協議会が全国で唯一受賞したものです。

市としても協議会と連携しながら今後も特色ある地域資源をいかした観光地づくりに努めていきます。

◇台湾との観光誘客と交流について

11月3日から5日、北投温泉で行われた台北温泉祭りに参加しました。北投温泉は玉川温泉と温泉連携協定を締結して今年で12年になります。同時開催された「台湾^{たいわん}亜太^{あたい}国際^{こくさい}温泉^{おんせん}旅遊^{りょゆう}会議^{かいぎ}」にも出席し、仙北市の温泉保養地の強いアピールを行ってきました。

また、11月25日、26日には田沢湖マラソンとランナーによる相互交流を続けている高雄マラソンに2人の仙北市民ランナーと参加してきました。

国際観光事業だけではなく仙北市の誘客の強みとなっている台湾との交流活動について、これから更に加速させ地域の活性化につな

げていきます。

◇タイのトップセールスについて

11月8日から12日、秋田県タイトップセールスに参加してきました。佐竹敬久知事さたけのりひさや県内の首長等と、県主催の旅行会社等へのPRセミナーに出席したほか、仙北市独自で旅行会社に訪問するなど、仙北市タイ現地事務所機能を最大に活かした活動となりました。

今回訪問した全ての旅行会社から具体的な旅行商品の企画につながったとの報告も現地事務所より入っています。この動きを止めることなくインバウンドの消費拡大、誘客に確実につなげていきます。

◇全国伝統的建造物群保存地区協議会役員会、要望活動について

11月13日、全国伝統的建造物群保存地区協議会役員会が都内で開催され、構成自治体からのアンケート調査で浮き彫りになった現状と課題等を確認しました。終了後、全国104自治体、126地区の代表として、生の声を届けるべく、村山卓金沢市長むらやまたかしらと文部科学省、文化庁、国土交通省、観光庁、財務省へ要望を行ってまいりました。

伝建制度は創設からまもなく50周年を迎えることから、協議会副会長として、食文化や伝統工芸、祭礼など多様な文化資源を掘り起こし、魅力発信につながる施策を引き続き国とともに進めてまいります。

◇伝建群防災訓練について

11月26日、旧石黒恵家きゅういしぐろけいけを会場に、角館北地域自主防災会きたちいきとの共催により伝建群防災訓練を実施しました。

火災を想定した放水訓練を行い、角館伝建群保存地区の町並みを守る会の皆様と有事に際しての対応を学ぶ機会となりました。

【農林商工部】

◇米の作柄状況及び品質について

11月10日現在の農林水産統計による令和5年産^{すいとう}水稻^{さつきょうしすう}の作況指数は、秋田県全体で97、県南は98で、いずれも「やや不良」となっています。6月から7月中旬にかけての日照不足に加え、7月の大雨の影響もあると考えられます。

また、今年は^{しゅっすい}出穂最盛期前からの例年にない高温により米の品質に影響が見られ、9月末現在の秋田県の一等米比率は62.6%と例年に比べ大きく低下しており、特にJA秋田おぼこ管内では、10月2日現在で一等米比率1.3%と過去に例を見ない水準となっています。近年の資機材価格高騰により農業経営が圧迫されている中、一等米比率の大幅な低下は農業経営に更なる打撃となり、今後の営農継続に大きな影響を及ぼすものです。

営農継続支援の関係予算を本定例会に提案しています。よろしくご審議をお願いいたします。

◇ツキノワグマの出没多発について

人身被害を最小限に抑えるため、防災無線やLINE、安全安心メール、新聞・広報での注意喚起の折込チラシ等、市を挙げて注意喚起を徹底してきましたが、11月14日現在、市内では残念ながら8件の人身被害が発生しております。そのうち7件が山ではないところでの被害となっています。仙北市鳥獣被害対策実施隊員等の皆様のご尽力により捕獲頭数は142頭で、昨年に比べ約4倍となりました。

今後も仙北市鳥獣被害対策実施隊員の皆様のご協力のもと、有害鳥獣対策を図ります。

◇「山の楽市」開催について

10月20日から22日までの3日間、東京都町田市の商業施設ぽっぽ町田を会場に、地域の魅力ある商品を紹介する観光と物産展「山の楽市」が開催されました。

「山の楽市」には市内8事業者が出店し多くの来場者が訪れました。新米あきたこまちをはじめ、直送した仙北市の秋の味覚の数々を

販売し、売上額は、3日間合計 374 万円となりました。市内の中小・小規模事業者の新たな販路開拓につながることができました。

【建設部】

◇国道整備促進期成同盟会について

国道46号「高規格道路」盛岡秋田道路及び大曲鷹巣道路の整備促進期成同盟会による要望活動を、10月10日に岩手河川国道事務所、11日に秋田県と能代河川国道事務所、24日に秋田河川国道事務所、30日に東北地方整備局と御法川みのりかわのぶひで信英衆議院議員ほか地元選出国會議員、31日に国土交通省と財務省で行いました。

盛岡秋田道路は「生保内～卒田間」の早期計画策定、大曲鷹巣道路は「大覚野峠防災」の早期着工を主な要望としました。

今後も強力に要望活動をしてまいりますので、議員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【医療局】

◇新型コロナ・インフルエンザの発生状況等について

発熱外来の4月から10月までの受診者数は、角館総合病院が対前年1,447人減の2,437人、田沢湖病院が対前年83人増の746人となっています。また、新型コロナの4月から10月までの延べ入院患者数は、対前年414人減の485人となっています。現在は数名の患者さんが入院しており、一般病床で対応しています。

今年はインフルエンザの流行が例年より早く、現在は、コロナよりも陽性者が多い状況です。今後も冬の感染拡大が懸念されますが、安心して診察を受けられるよう感染対策を徹底してまいります。

◇無痛MRI乳がん検診について

無痛MRI乳がん検診を開始した8月16日から現在までの検診件数は12件となっています。検診後のアンケートでは、多くの方から「痛くなくて良かった」、「恥ずかしくなくて良かった」との回答があり、

高い評価をいただいております。

無痛MRI乳がん検診を考案したのが秋田大学医学部卒業の医師というご縁もあり、ここ秋田から多くの方々に知ってほしいということで、仙北市ではふるさと納税型クラウドファンディングを実施しております。目標額 380 万円に対し、11 月 28 日現在 248 万円の寄附をいただいている状況です。今後も様々な手法によって周知に努めてまいります。

以上、主要事項及び諸般の報告を申し上げます。本定例会に提案している案件は、報告関係2件、専決関係1件、条例関係6件、予算関係 10 件、指定管理者関係3件の計 22 件です。

慎重審議の上、ご可決を賜りますようお願い申し上げます、市政報告とします。